

# 新！地域づくり宣言

笑顔あふれるまち

市民！

助け合い

行政

若者

人口減少

人の絆

課題

希望

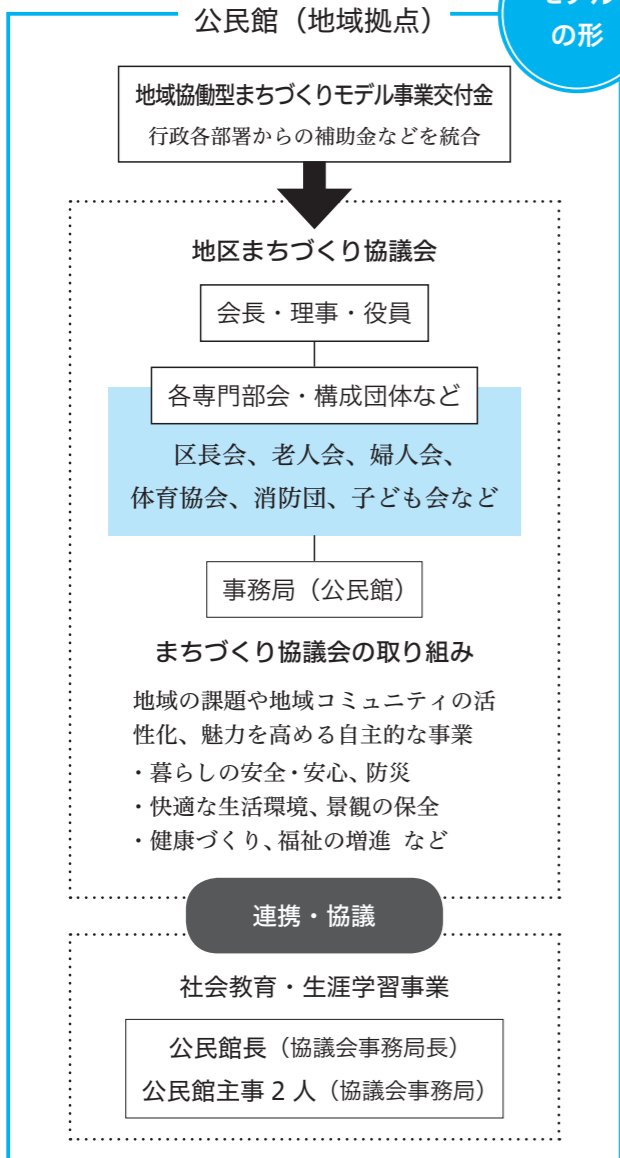
リーダーシップ

未来

後継者育成

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線 372

## モデルの形



**市**では、地区の公民館を拠点に、市民・各団体・行政が一丸となってまちづくりを進める「まちづくり協議会」の設立を目指しています。

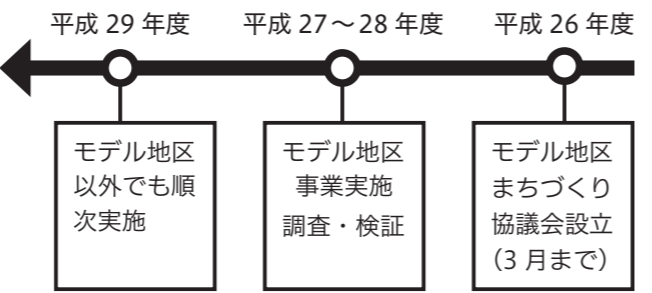
また、地域環境づくりの原材料支援など行政の各部署から用途別に交付してきた補助金をまとめた「交付金」を交付します。まちづくり協議会の判断と責任のもと、使い道を決めることができるため、地区の実情に合ったまちづくりに取り組むことができます。

## モデル事業に 5 地区決定！

公民館を拠点とした地域協働型まちづくりを進めるにあたり、制度に関する課題の把握、検証を行うために、「モデル事業」の実施地区を募集したところ、12地区中5地区から応募がありました。審査をした結果、5地区とも要件を満たしていること認められることから、来年度からの2年間、地域協働型まちづくりモデル事業に取り組んでいただくことになりました。

- 【モデル地区】
- 小浜地区
  - 内外海地区
  - 遠敷地区
  - 今富地区
  - 中名田地区
- ※モデル実施期間は、平成27年4月1日～同29年3月31日

## 今後のスケジュール



※モデル地区には平成 28 年度の 1 年間だけでも参加可

## 先進地の取り組み

まちづくり協議会による地域が一体となったまちづくりが、すでに全国の市町で始まっています。近隣では、滋賀県の近江八幡市や、富山県の射水市が先進的に取り組んでいます。県内では、越前市が平成 16 年から住民主体のまちづくりを進め、全地区に地域づくりに取り組む自治振興会が作られています。



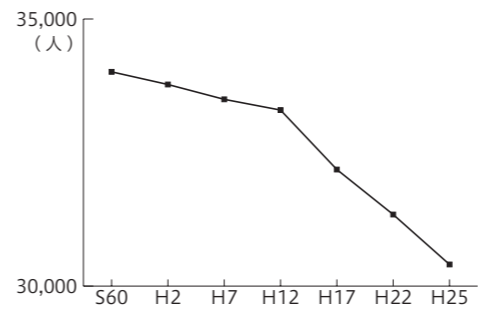
小浜の各地区代表らが近江八幡市を視察

**小**浜全体を活性化し、将来にわたって持続的に発展させるために、市では、「協働のまちづくり」を推進してきました。その結果、「行政主導によるまちづくり」から脱却し、「地域・住民主体のまちづくり」が進んできました。

平成13年度からスタートした「いきいきまちづくりプラン推進事業（現在は、夢づくりコミュニティ支援事業）」では、各地区で策定した地区振興計画に基づいて、まちづくり委員会を中心に地域の特色や資源を生かした取り組みが実施されています。

しかし、近年、少子高齢化が進み、まちづくり団体の弱体化や後継者不足が深刻な問題となっています。今後、協働のまちづくりをより一層推進するためには、地域力を結集することが重要であり、そのための新たな仕組みづくりが必要となっています。

■小浜市の人口の推移（資料「国勢調査 平成 25 年福井県人口推計」）



年	小浜市の人口
昭和 60 年	34,011 人
平成 2 年	33,774 人
平成 7 年	33,496 人
平成 12 年	33,295 人
平成 17 年	32,182 人
平成 22 年	31,340 人
平成 25 年	30,405 人

- 現状**
- ・人口減少と少子高齢化
  - ・生活スタイルの変化
  - ・地域のつながりの希薄化
- 課題**
- ・団体役員の担い手不足
  - ・行事などへの参加者数減
- 小浜市の現状と課題



professional

## 識者の目

モデル事業に取り組む地区の代表者インタビュー

People

## 支えるヒト



仁愛女子短期大学  
教授 **内山 秀樹** さん (57歳・越前市)

専門は環境デザインやまちづくり。小浜市協働のまちづくり市民会議会長として、平成24年から現在まで小浜の協働のまちづくりに携わる

行政からの交付金を活用し、「まちづくり協議会」などの住民自治組織を中心とした地域が一体となった協働のまちづくりの取り組みは、全国でも増えてきています。  
取り組みを進めていくにあたっては、まず、自分たちの地域の課題について、みんなで話し合い、決定することが大切です。良いところも、悪いところも、できるだけ多くの住民で共有すること。一部の声の大きい人の意見だけで議論が進んでしまうと、活動の継続が難しくなり、うまくいかないことが多いです。大事なことは、いかにみんなが参加したくなる組織を運営できるかということだと思います。今まで発言



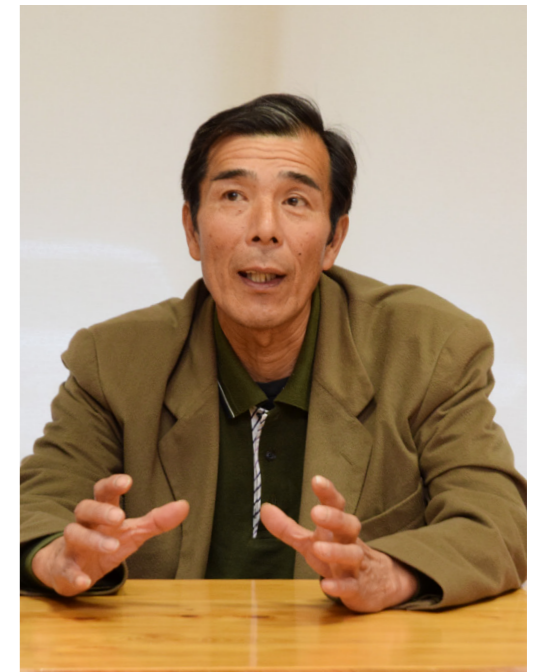
遠敷地区の自然を生かした魚つかみ大会

### みんなが参加したくなる組織を

### 内外海地区の魅力を生かして

内外海地区は、住民同士の結束力がとても強い地域です。区長会を中心に、婦人会、青年団、老人会など各団体が助け合いながら事業に取り組んできた歴史があります。まちづくり協議会を組織し、来年度からモデル地区として取り組むことで、地域課題についての話し合いや、各団体同士の間が強くとなると考えています。各補助金などをまとめて交付金として交付してもらうことで、地区の実情に沿った使い方ができるのはあり

がたいです。使途の自由度が増すというのも大きなメリットです。資金面以外でもサポートしてもらいたい、行政と協働でまちづくりを進めていきたいです。自然が豊かで、漁業など地場産業が活発な内外海の魅力を生かして、観光面から地域を盛り上げていきたいですね。近年は、民宿の数が減り、後継者問題にも直面しています。外部の人を呼び込み、魅力を知ってもらうことで、地域を活性化させて、人口減少にも歯止めをかけたいです。



内外海地区  
区長会長 **中島 一男** さん (57歳・西小川)

若狭おばま観光協会副会長や民宿推進協議会会長などを歴任。本年度は、区長会長として内外海地区の活性化に取り組んでいる



今富地区内にペットボトルツリーを設置

する機会の少なかった地域の若者や女性、子育て世代の「思い」や「夢」を吸い上げていかなければなりませんし、会議ばかりではよいアイデアが出ないので、少し目線を下げて、懇親の場を設けて、そこで意見を交わすなど地域ごとの工夫なども必要となります。同じ小浜市でも、地区によって環境も違うし、抱える課題も違ってきます。地域の課題を、強みも弱みも含めて再度整理すべきでしょう。例えば、遠敷地区は「感動できる自然や景観」、今富地区は「道の駅を生かした活動」、中名田地区は「継承されてきた伝統行事」のように、磨けば光るものがたくさんあります。



中名田地区の各区で継承される松上げ

### 協働のまちづくりのプロフェッショナルに聞く！

### まち全体で仲間意識を持つことが大事



小浜いきいきまちづくり委員会  
委員長 **桺郷 三好** さん (67歳・竜田)

小浜地区区長会長や商店街連盟会長を歴任。小浜地区まちづくり協議会代表として、平成25年から精力的に活動している

小浜地区には、今、まちのにぎわいを取り戻すチャンスがあります。「まちの駅」の整備に向けて計画が進んでおり、その活用について住民目線で検討するため、平成25年8月にまちづくり協議会を設立。区長会を始め、各団体の代表など24人の委員が集い、情報を共有し、意見交換をしています。そこで出た意見を集約し、地元の要望として行政に伝えていきます。この先、人口減少に伴い、空き家や空き店舗の増加が懸念されます。

そんな時勢だからこそ、「まちの駅」のような、人が集う場所を作ること、地域の歴史や文化の発信地ができることに意味があると思います。地域のことは地域に住む人が主体となって考える。そして、各団体の活動を地区全体の問題として取り組んでいくことが、大切だと思います。地区を見つめ直して、みんなでのこれからのまちづくりについて考えていくことで、まち全体に仲間意識が生まれるのではないのでしょうか。

さん存在します。人が知恵を出したり、行動したりする原動力は、人の輪だと思えます。ときには外部の人の声や力を取り入れながら交流し、人と人とのコミュニケーションを促進するということに重点を置いて、地域づくりに取り組んでほしいですね。これは、住民だけに求めるのではなく、行政も本気になって支援体制を充実させないといけません。地域運営の拠点となる公民館のスキルアップなど組織を充実させたり、地域に住む市職員が参画したりすることで、協働のまちづくりが進んでいくものと思います。